

第1章 [はじめに]

1 今日の環境問題

平成 20 年版環境白書では、二酸化炭素等の温室効果ガスが人為的に大量に大気中に排出されることにより、世界の年平均気温は上昇し、海面の上昇や氷床の溶解が進みつつあることを深刻な問題として示しています。2005 年の大気中の二酸化炭素濃度は 379ppm と産業革命前の約 280ppm の約 1.4 倍となっており、世界平均地上気温は 1906 年から 2005 年までの 100 年間で 0.74 上昇し、20 世紀を通じて平均海面水位は約 0.17m 上昇したとされています(気候変動に関する政府間パネル (IPCC) より)。日本においては、20 世紀中に平均気温が約 1 上昇しており、気候の変動が生態系、農業、社会基盤、人の健康など多大な影響を与えることが予想されます。

平成 20 年(2008 年)7 月には日本が議長国となり、環境問題を主要な議題とする北海道洞爺湖サミットが開催されました。G8 の国々は議長総括の主文において「2050 年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも 50%の削減する長期目標について、国連気候変動枠組条約加盟国全締約国と共有し、採択すること」などを盛り込んだ首脳文書がとりまとめられました。

京都議定書の対象となっている日本における二酸化炭素の排出量(2001～2005 年)は年々増加しており、平成 20 年度(2008 年度)は地球温暖化対策に関する国際的な約束である京都議定書の温室効果ガス 6 %削減の第一約束期間(2008 年～2012 年)が始まりました。